

# 竹谷とし子 参院災対特委員長(公明)

——昨年末、消費増税に伴う軽減税率導入を巡り、自民党、財務省と公明党が議論した。会計士、弁護士(資格者)などが役割分担していた。

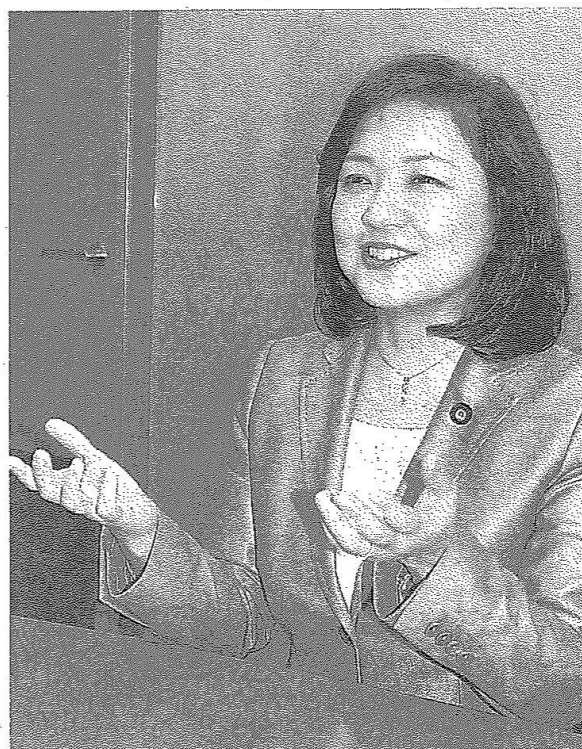
出席は一回だけだが「自民党は文化が違う」と感じた。公明党は議員同士の関係がフラット(平ら)だが、自民税調は非常に権威を重んじる。民主主義は多数決で、連立政権の中で意見が割れた時、財務省は多数(自民)につき。主張を通すには勉強して理論武装しなくてはならない。

——協議の際、自民党の文書作成には財務省が関与していたようだ。公明党は？ 議員の手作りだった。会計士、弁護士(資格者)などが役割分担し、徹夜で論点ペーパーを作った。軽減税率の反対理由の一つに「納税の事務手続きが大変」と。インボイス(商品ごとに税率や税額を記した送り状)という言葉が独り歩きして、財務省はそれを知って「10%への引き上げ時に軽減税率は無理だ」という反論を作ってきた。そこは一つ一つ説き伏せるようなペーパーを作ったり取り出した。

## 一言

若手から ③

# 「違うことは違う」主張を



1969年生まれ。創価大卒。公認会計士。コンサルティング会社勤務を経て2010年に参院東京選挙区で初当選し、1期。44歳。

対譲らない。公明党は生活者の党で女性の支持者が多く、「平和」ということにものすごく敏感だ。現場を回って厳しい言葉をいだけ、それを国会の中で政府と自民党にぶつけていきたい。

——安倍政権への注文は？

(政権を)一緒に支えている立場だが、脇は締めていくべきだ。株価は非常に重要だが一つの指標で、現場を回ると国民はまだ景気回復の恩恵は受けていない。まだ「期待感」だ。おかしなことをすれば、すぐに民意は離れていく。真の景気回復にしっかり軸足を置かなければならない。

——自民党の「手ごわさ」も感じたか。

私たちが理論武装して現場の声を聞いた案に、自民党にも賛同してくれる方がいたから(合意)できたと思う。賛同の声が少し強くなつた。やはり数の力があるので、公明党だけではだめなんです。

——与党内での公明党の存在意義は。ものを言う局面は多くなると思う。しっかりと議論して「違うことは違う」と主張しなくてはならない年になってくると問題解決すべきで、平常心が必要だ。

——集団的自衛権の行使容認を巡り、慎重な議論を求める公明党の主張を、自民党がどこまで考慮するかは分からない。与党の立場と党是のバランスをどう保つのか。

党是の平和主義は絶対

【聞き手・高本耕太、写真も】 二つづく